

# キッズ・モニターアンケートの概要 「障がい（しょうがい）と手話（しゅわ）について」

アンケートの実施結果は、以下のとおりでした。  
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

## 概要

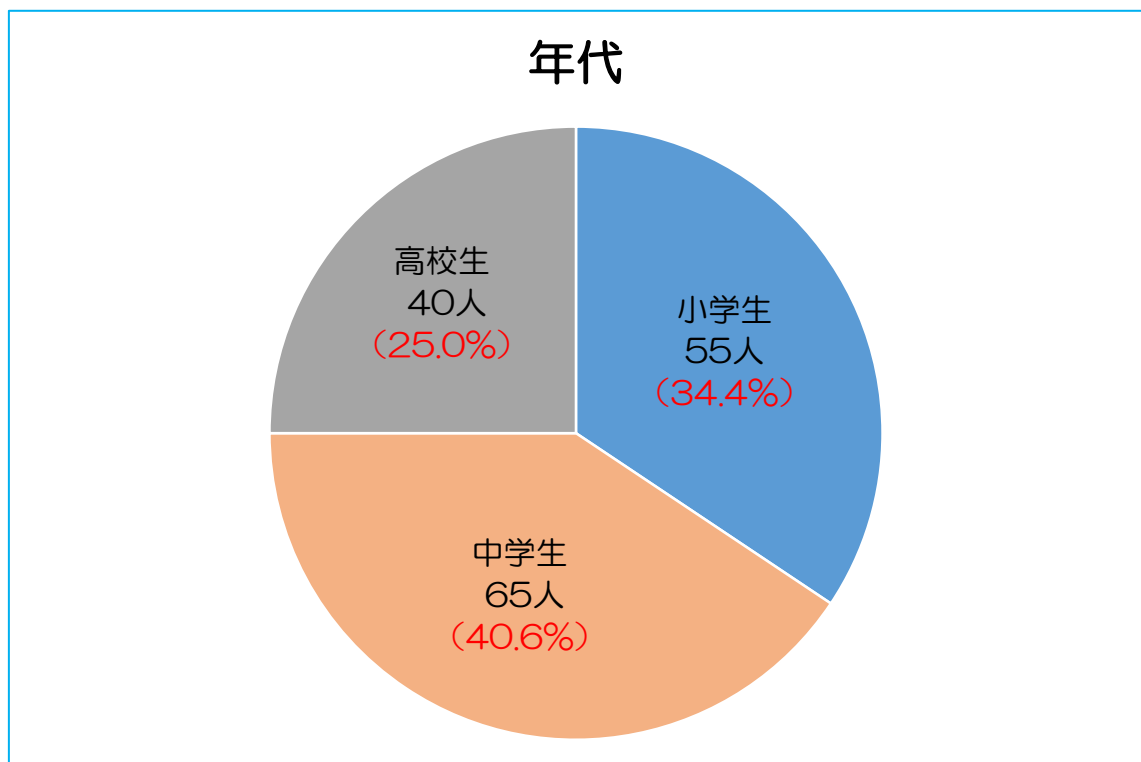
1. 実施期間 令和5年9月15日（金）～令和5年9月28日（木）
2. 回答者数 160人
3. 回答率 27.6%（160人／579人）
4. 実施方法 インターネットによるモニター調査
5. 担当課 子ども・福祉部障がい福祉課

## アンケート結果概要

Q1 あなたの年代はどれですか。

【単一回答】

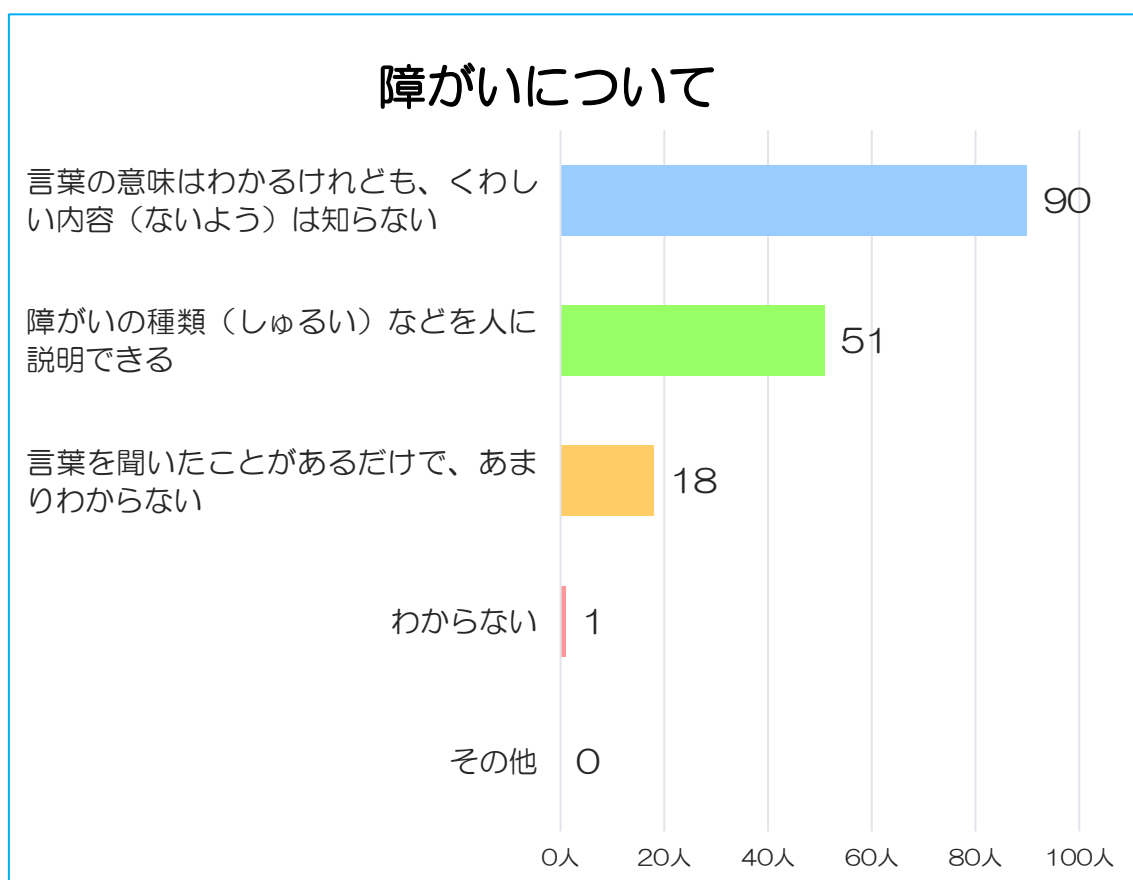
今回答えていただいた方の年代は、下の表のようになりました。



Q2 あなたは、障がい（しょうがい）について、どのぐらい理解（りかい）していますか。

【単一回答】

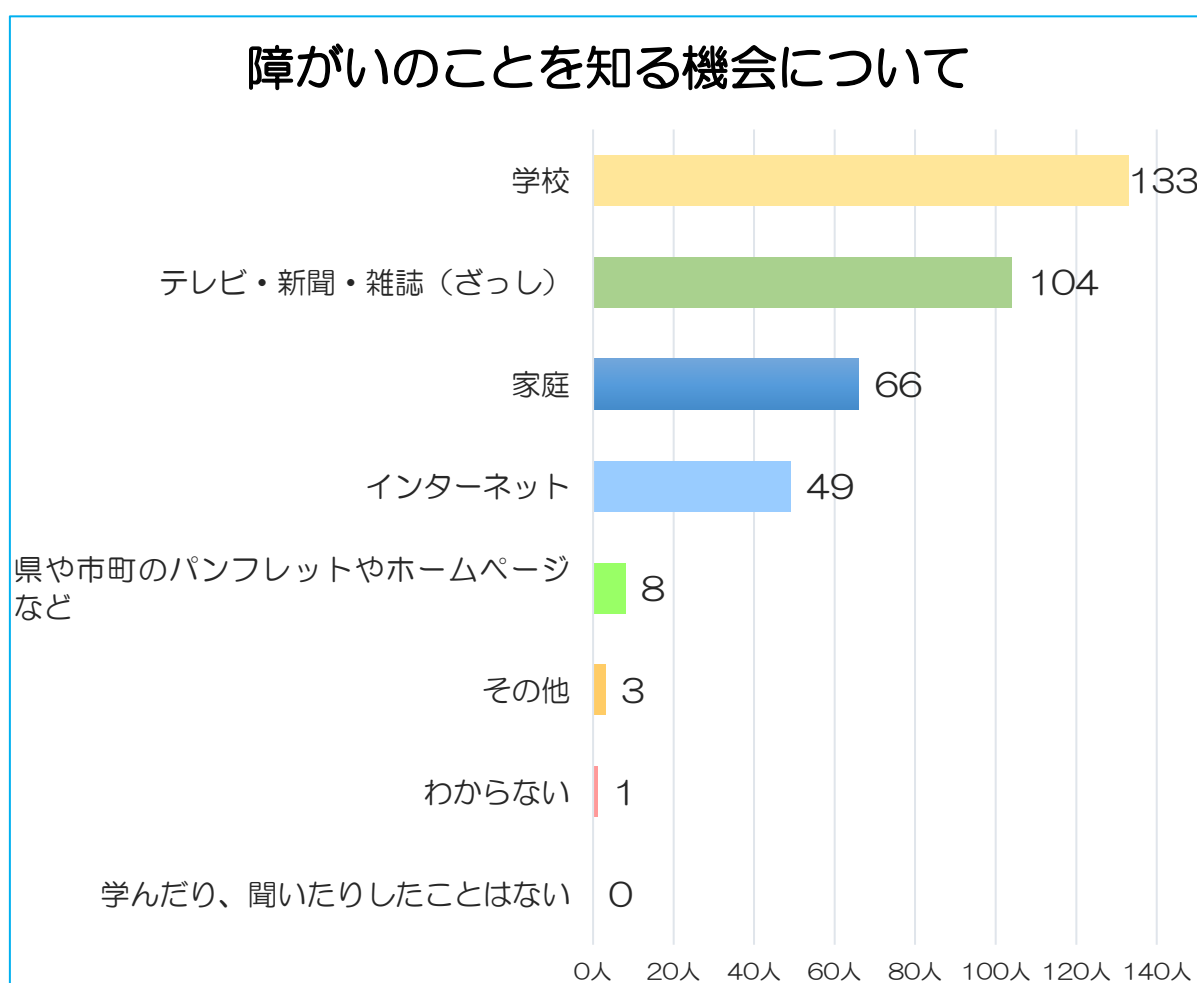
「言葉の意味はわかるけれども、くわしい内容（ないよう）は知らない」が90人（56.3%）と最も多く、次に「障がいの種類（しゅるい）などを人に説明できる」が51人（31.9%）、「言葉を聞いたことがあるだけで、あまりわからない」が18人（11.3%）となりました。



Q3 あなたは、障がいや障がいのある人のことを、どこで学んだり、聞いたりしていますか。  
あてはまるものをすべてえらんでください。

【複数回答】

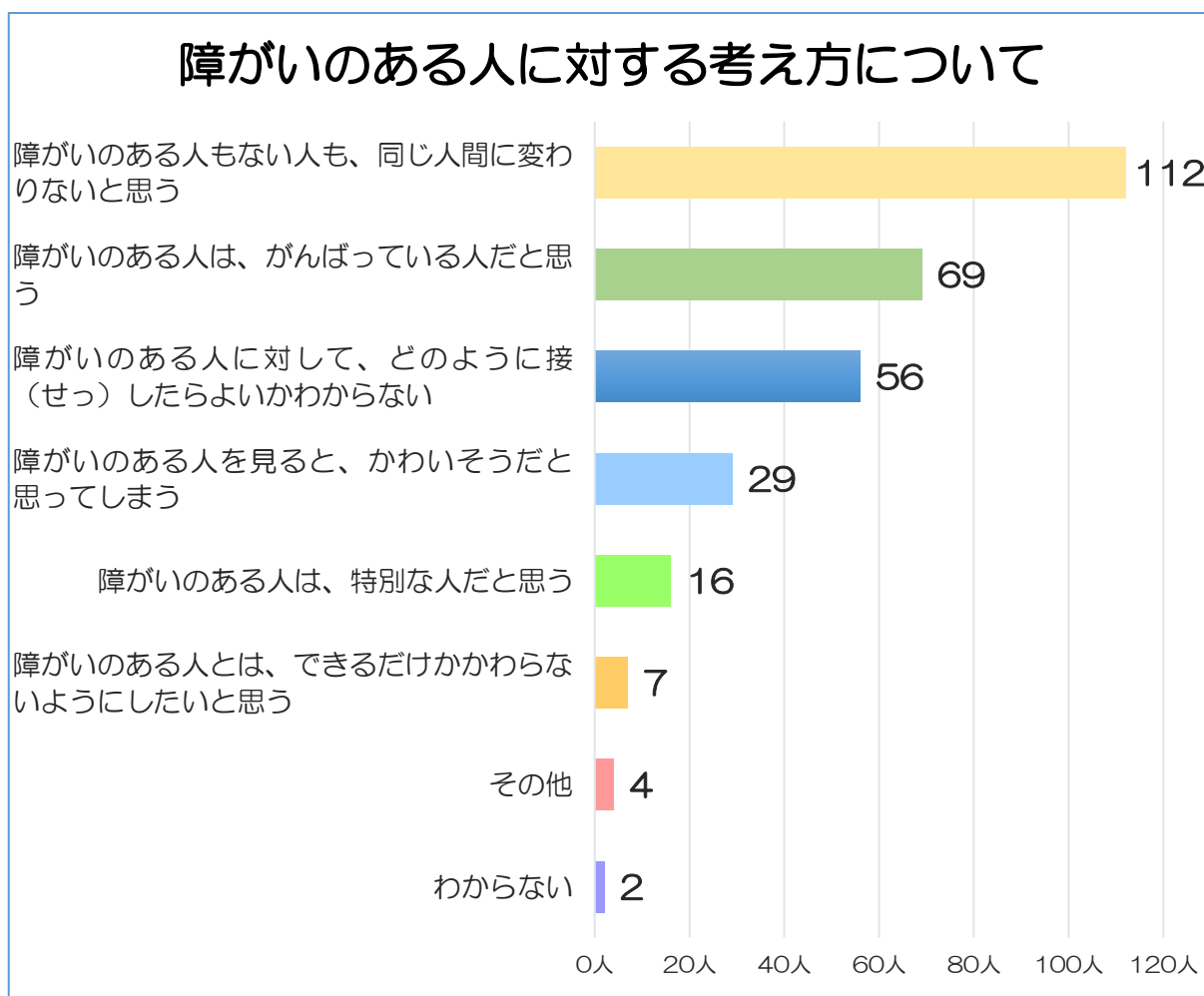
障がいや障がいのある人のことを学んだ場所について、「学校」が133人と最も多く、「テレビ・新聞・雑誌（ざっし）」が104人、「家庭」が66人、「インターネット」が49人となりました。



Q4 あなたは、障がいのある人に対して、つぎのような考えをもったことはありますか。  
あてはまるものをすべてえらんでください。

【複数回答】

「障がいのある人もない人も、同じ人間に変わりはないと思う」が最も多く112人、次に「障がいのある人は、がんばっている人だと思う」が69人、「障がいのある人に対して、どのように接（せつ）したらよいかわからない」が56人、「障がいのある人を見ると、かわいそうだと思ってしまう」が29人となりました。



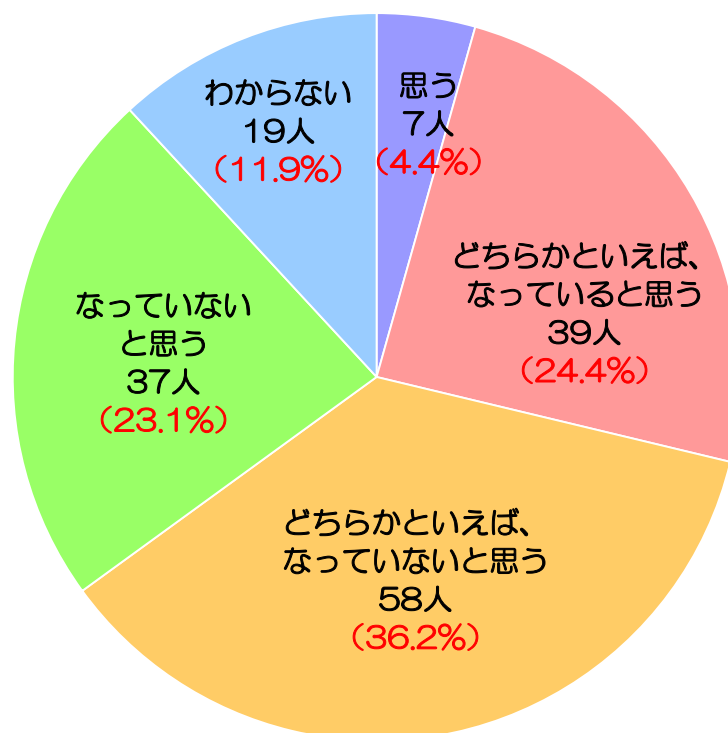
Q5 あなたは、現在（げんざい）、障がいのある人に対する差別（さべつ）や偏見（へんけん）のない社会になっていると思いますか。

【単一回答】

「差別や偏見のない社会になっていると思う」が7人、「どちらかといえば、差別や偏見のない社会になっていると思う」が39人となり、合わせて28.8%となりました。

また、「どちらかといえば、差別や偏見のない社会になっていないと思う」が58人、「差別や偏見のない社会になっていないと思う」が37人となり、合わせて59.3%となりました。

### 差別や偏見のない社会になっている と思うか



Q6 Q5で「どちらかといえば、差別や偏見のない社会になっていると思う」、「どちらかといえば、差別や偏見のない社会になっていないと思う」、「差別や偏見のない社会になっていないと思う」と回答された人にお聞きします。

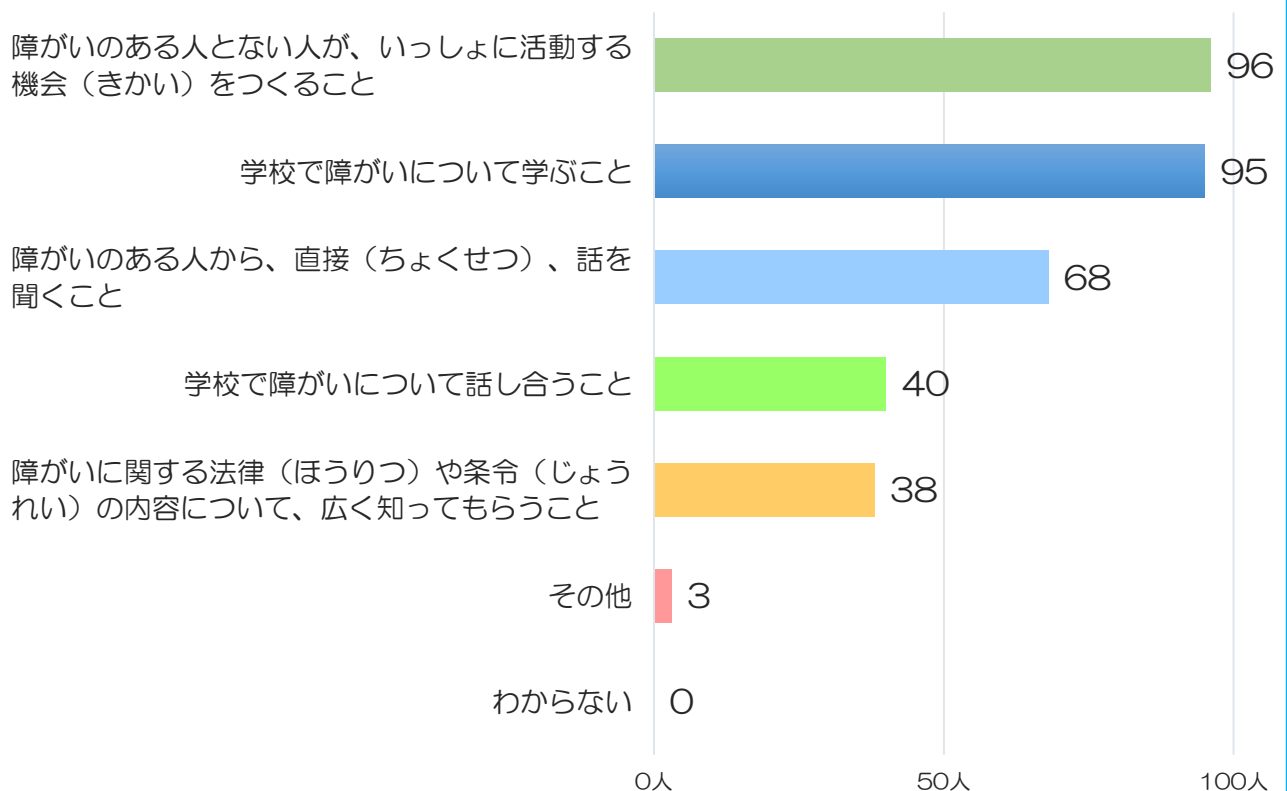
あなたは、障がいのある人への差別（さべつ）や偏見（へんけん）をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべてえらんでください。

【複数回答】

「障がいのある人とない人が、いっしょに活動する機会（きかい）をつくること」と「学校で障がいについて学ぶこと」がそれぞれ、96人、95人の回答がありました。

次に、「障がいのある人から、直接（ちよくせつ）話を聞くこと」が68人、「学校で障がいについて話し合うこと」が40人、「障がいに関する法律（ほうりつ）や条令（じょうれい）の内容について、広く知ってもらふこと」が38人となりました。

## 障がいのある人への差別（さべつ）や偏見（へんけん）をなくすために必要なこと

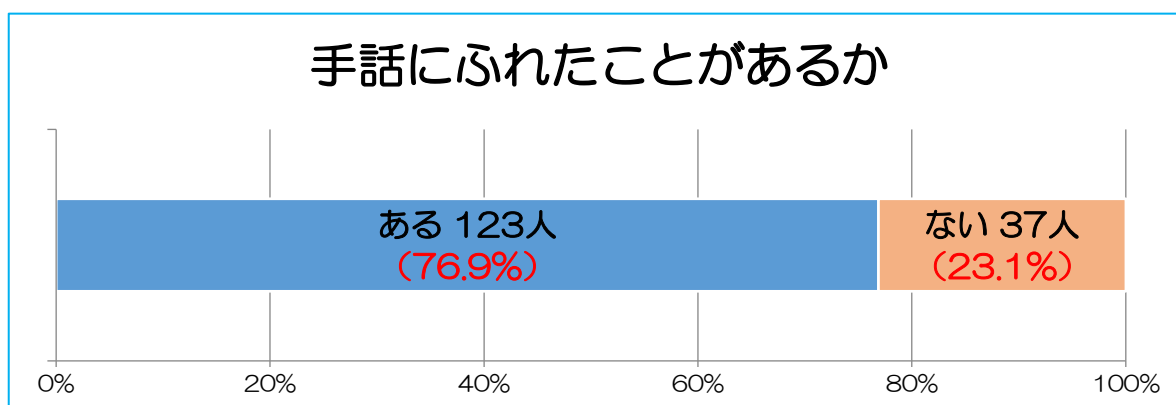


Q7 あなたは、これまでに、手話にふれたことがありますか。  
(手話にふれるとは、手話を使う人に会ったり、手話を見たり、体験したり、学んだりすることです。)

【単一回答】

手話にふれたことが「ある」人の割合は76.9%となり、おおよそ10人のうち8人が手話にふれたことがあることがわかりました。

また、手話にふれたことが「ある」人の割合は、高校生と比べて、小学生や中学生がやや高い結果になりました。



<手話にふれたことのある人の割合の推移 (キッズ・モニターアンケート) >

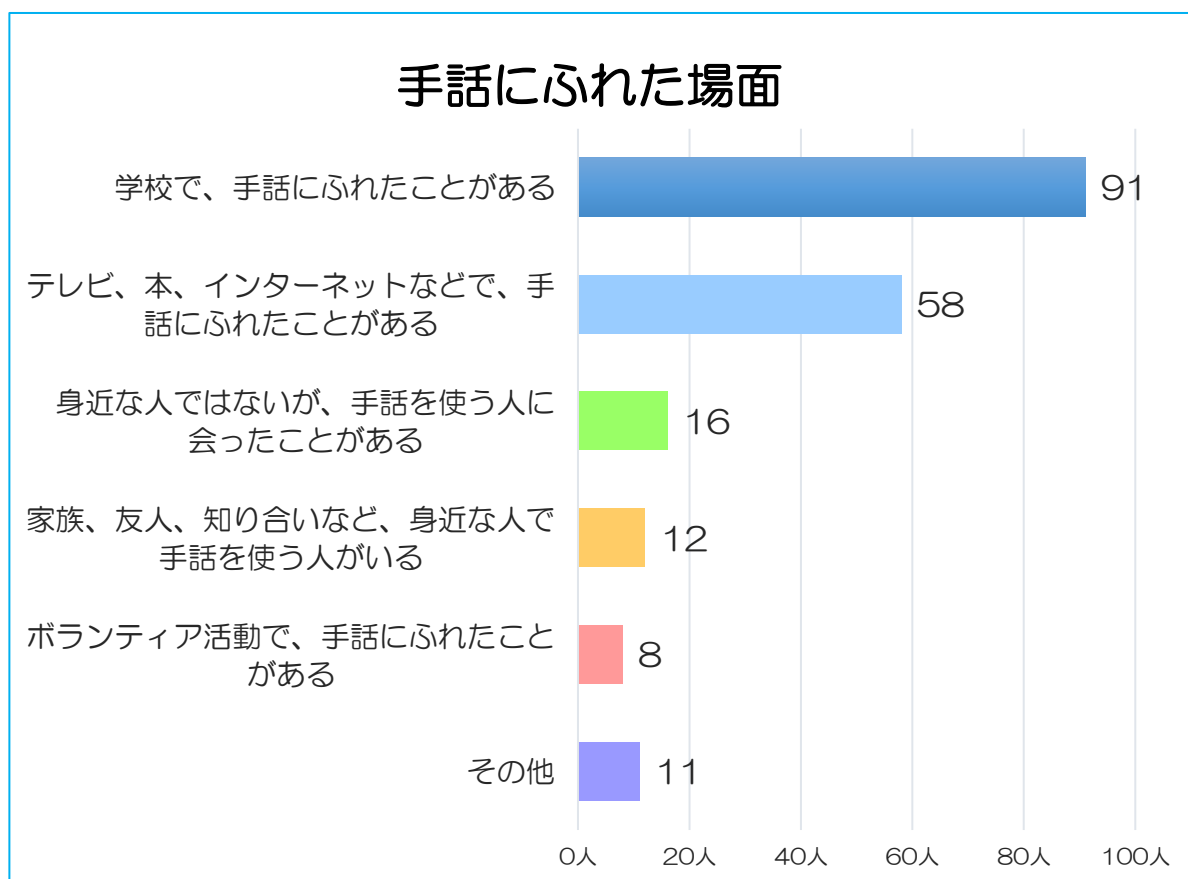
令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
72.7%	72.9%	78.4%	77.8%	76.9%

Q8 Q7で「ある」と回答された人にお聞きします。  
それはどのような場面でしたか。  
あてはまるものをすべてえらんでください。

【複数回答】

実際に手話に「ふれる」のは、「学校」(91人)が最も多く、次に「テレビ、本、インターネット」(58人)が多い結果となりました。

また、「その他」としては、「保育園(幼稚園・学童保育)で教えてもらったことがある」、「英語の塾で手話を使って歌をうたった」などの回答がありました。

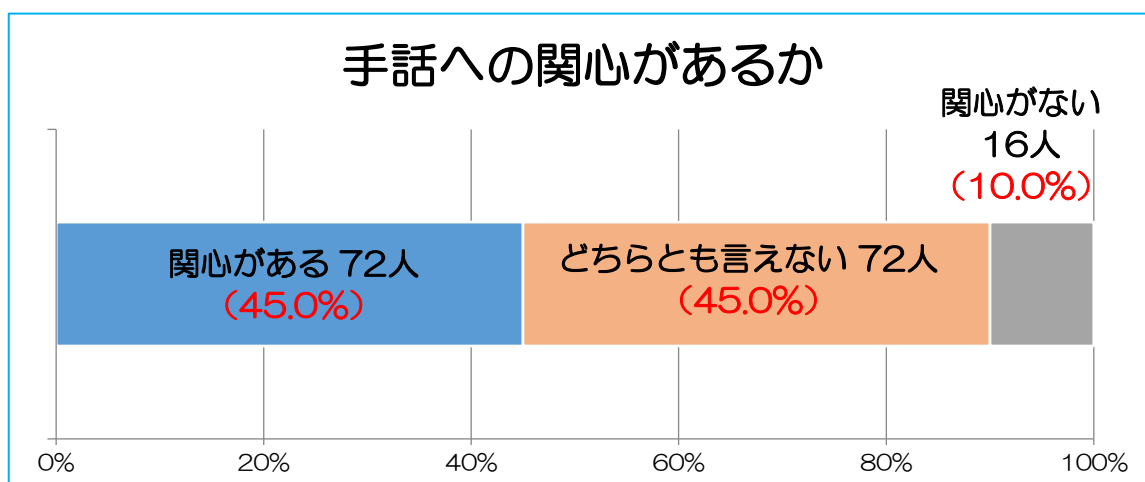




Q9 あなたは、手話に関心がありますか。

【単一回答】

手話に関心がある人は約5割となり、関心がない人を大きく上回りました。  
また、年代別では、小学生の方が、中学生や高校生より関心が高い結果になりました。



手話に関心がある人の割合（年代別）

	小学生	中学生	高校生
関心がある	62%	39%	33%
どちらとも言えない	25%	52%	60%
関心がない	13%	9%	7%

Q10 あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
あてはまるものをすべて教えてください。

【複数回答】

「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、多くの方が「学校で、手話とろう者について学ぶこと」(101人)、「ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会をつくること」(96人)が必要と考えていることがわかりました。

また、「ろう者から、直接話を聞くこと」(61人)や「地域(ちいき)のイベント等をとおして、手話とろう者について知ってもらうこと」(55人)といった回答も多く寄せられました。

## 「手話」が使われるために必要なこと

